

編集後記

新しい年を迎え、皆様それぞれ心に期するものがあると思います。私にとって昨年は、十年前に着手した実験が漸く論文として受理され、感慨深い年でした。臨床家は、一年一年経験を積むたびに、これまでにない新しい発見がありますが、それと引き換えに過去の古い記憶は薄れてしまいがちで、結局は同じなのかもしれませんが、そうならないように自戒の念を込めながら今年も過ごしていきたいと思います。

さて、本年最初の号を飾る新春放談ですが、今年のテーマは「爪の診かた」でした。私を含め多くの皮膚科医にとって爪の診かたは難しく、とくに真菌症や炎症性角化症などの疾患に当てはまらないような爪だけの変化は困ります。また、爪の変化が起因するものは爪母の炎症なのか爪床の変化なのか、考えながら診察していると言われるれば心もとない気がします。

座談会では、常々疑問に思っていたdystrophia unguis mediana canaliformisの話も出してみました。その原因については、自分の爪で圧す癖によると書かれたものもありますが、これまで見てきた患者さんは皆否定しますし、足趾の爪に起きるものは説明が付きません。周期性に出てきてやがて自然に軽快してくる患者さんもいますし、家族性に起こる症例もあります。したがって、爪の脆弱性など何らかの素因を持った人に生じる原因不明の病態と今は理解していますが、原因に関してはいくつかあるのかもしれませんが、中央に縦の木状に縦走する本症と、いわゆる洗濯板状爪の異同も含めて、読者の皆様の経験を聞いてみたいところです。

本誌の座談会は私にとって初めての経験で、どこで自分が口を挟んでよいかわからないまま戸惑いながらの一時間でしたが、西山先生の変わらない迫力を感じながら、あっという間に過ぎた幸せな時間でした。(T.Y.)

次号予告

Vol.38, No.2

特集 物理化学障害による皮膚病

- ◆editorial 山本 俊幸
- ◆展望 山本 俊幸
 - 創傷治癒遅延モデル
- ◆topics 高橋 秀典
 - 医療関連機器圧迫創傷
- ◆統計 浅井 俊弥
 - 熱傷の統計
- ◆臨床例
 - Squaric acid dibutylester(SADBE)感作部位に生じたリンパ球種型接触皮膚炎 福田 亮子, 石黒 直子
 - ストーマ静脈瘤 貴船 夏子ほか
 - 液化石油ガスによる両手凍傷 貴志 知生ほか
 - 乳癌治療の6年後に生じたradiation-induced morphea 山本真有子ほか
 - 携帯型ゲーム機によるfriction blister 宮本 秀明
 - 草刈り機の刃の断片(タングステン)により偽リンパ腫様反応を示した例 中村有希子ほか
 - 放射線照射部位に生じたmalignant fibrous histiocytoma 加藤 保信
 - 脳IVRによる放射線照射後に生じた急性脱毛症 福長 美幸ほか
 - フッ化水素酸による化学熱傷 高山 直子ほか
 - 上肢電撃傷の2例 岩田 洋平ほか
 - 術中加温装置使用後に生じた低温熱傷の2例 眞鍋 泰明, 馬淵 智生
 - 蟻酸による化学熱傷 石川 真郷ほか
 - フッ化水素酸による化学熱傷の2例 長島真由美ほか
 - 鞆の物理刺激が誘因と考えられた毛孔角化性病変 芝岡さやかほか
 - スマートフォンケーブルによる化学熱傷 川本 友子ほか
- ◆office dermatology
 - 熱傷の治療と熱傷診療の課題 尹 浩信, 立花 隆夫, 向井 秀樹, 浅井 俊弥
- ◆学会ハイライト
 - 8th World Congress of Itch(WCI国際痒み学会)を終えて 片山 一朗
- ◆蝶の博物詩 西山 茂夫
- ◆診察室の四季 斉藤 隆三
- ◆皮膚科のトリビア 浅井 俊弥

皮膚病診療 Vol. 38, No.1(2016)

平成27年12月26日印刷

平成28年1月1日発行

1部定価2,400円(本体)+税 送料82円

年ぎめ予約購読料35,800円(本体)+税

発売所／丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階

TEL 03-3512-3256(代表・受注センター) FAX 03-3512-3270

編集人 西岡 清

発行人 小西 庸一

発行所 株式会社協和企画

〒105-8320 東京都港区虎ノ門1-10-5

日土地虎ノ門ビル3階

電話:03-6838-9200(代) 03-6838-9225(編集)

振替口座:00190-0-36746

印刷所 株式会社 恒陽社印刷所

ご購読ご希望の方は直接弊社もしくは書店までお申し込みください。

© 株式会社 協和企画 2016年

・JCOPY <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。